



## タクシー運転手10年で4割減

九州、21年度時点 稼働率55%どまり

九州各地でタクシーがつかまらなくなっている。九州7県の法人・個人タクシーの運転手は10年間で4割減少し、タクシー会社の駐車場では多くの車両が休眠状態となっている。新型コロナウイルス禍で高齢者の離職が一気に進み、人流が戻っても新たにドライバーを目指す若者は少ない。ビジネスや観光を支える地域の足に危機が迫っている。九州運輸局によると、九州7県の2021年度の法人・個人タクシーの運転手は計約2万6千人で11年度と比べて約39%減少した。車両の稼働率は約55%で、同約23%低下している。「たまに若者が入ってきて、売り上げを増やそうと早朝から深夜まで働いた結果、体を壊して辞めていく」こうした現状を改め、職業としての運転手の魅力を高めようと、給与体系を見直す動きもある。別府市のみなどタクシーは22年から固定給を導入しており、対象者については月曜から金曜まで1日実働8時間で休日出勤や夜勤は無しとしている。タクシーの運転手不足は今後さらに進む恐れがある。新しい発想ですぐにも改革に乗り出さなければ歯止めをかけることすらおぼつかない。

—日経MJ2023.11.10—

注目

トレンドのまち

福岡県 北九州市TOPICS

本州と関門海峡を挟んだ、九州の玄関口

都会と自然が楽しめる“ものづくりのまち”

### 『地球の歩き方 北九州市』

2024年2月発売予定。（2023年11月予約開始&表紙イラスト発表予定）初の「市販」として北九州市が選ばれた。ものづくりの歴史や文化、グルメ、エンタメなどディープで唯一無二の魅力を掲載予定。

北九州市は、人口92万人の九州を代表する政令指定都市。子育て環境、交通網、医療知性の充実など、子供から大人まで住みやすい街として全国的にも注目される。都会的な暮らしに加えて、雄大な海や四季折々の草花が生息する山などの豊かな自然に囲まれた地方暮らしも楽しめる。「大都会」×「自然」が共存した街に、これからは目が離せない。



①若松区と戸畑区を結ぶ、長さ627mの吊り橋。洞海湾に架かる赤い躯体はシンボリックな存在であり、令和4年に国の重要文化材に指定。ライトアップされた橋は日本夜景遺産にも認定。



②標高300から700m、南北6km、東西2kmに広がる日本3大カルストのひとつ。春の野焼き、新緑、秋のすすき野など自然の美しい変化を楽しむことができる。

—日経トレンディ12月—

## 二瓶利夫氏を偲ぶ会

日本のパン文化に貢献

多くの仲間や後輩が参列し感謝伝える

本年7月、フランスで急逝（享年76歳）した二瓶利夫氏を偲ぶ会が10月30日、東京・千代田区の帝国ホテルで執り行われた。当日会場には多くの参列者が集まり、生前の二瓶氏がほほ笑む遺影と二瓶氏を慕う製パン技術者達が作ったパンが並び祭壇の前に設けられた献麦台の上に麦の穂を手向けながら二瓶氏との思い出を振り返り、別れを惜しんだ。

献麦後参加者は、偲ぶ会の代表を務めたドンクOB会会長の友近史夫氏、明石克彦氏（ベッカライプロートハイム）、金林達郎氏のあいさつを受け、会場へ設置されたテーブルへ。

設置されたテーブルの一つひとつに異なる二瓶氏の写真が飾られ、そこで来場者たちは二瓶氏の思いでを語り合った。

祭壇の後ろに設置された大型モニターには生前の二瓶氏のさまざまなシーンや著書などの写真が映し出され、その映像を見て二瓶氏を振り返り、再び思い出話で個人を偲んだ。

二瓶氏は1970年にドンクに入社しフランスパン製造の道を歩み、多くの製パン技術者にフランスパンの製法と魅力を伝えた。

—パンニュー2023.12.5—



若戸大橋



平尾台